

横浜線の冷房車

※ 昭和53年3月末日時点に於ける蒲田区の冷房化率は京浜東北が67%弱(Mユニットは全車冷房)に対して横浜線は皆無であった。

◎4月頃から真新しい新造冷房のMユニット(M644・800、M645・801)が暫定使用されていたが冷房はされなかった(Tcが非冷房車の為)

昭和53年3月の編成表・56F参照

●昭和53年大改正の恩恵

転出① その年の10月2日の大改正で紀勢本線電化開業に際し阪和線鳳区(天オト)に24両の103系が必要となり蒲田区の非冷房103系が転属の対象となり横浜線からは18両が(天オト)に転出した。(残り4両は京浜東北線の車両)

○転出車両 Mc47・143、Mc48・145、M71・71、M72・72、
M 148・277、Tc86、Tc521、Tc546、Tc554

鳳区(天オト)は大改正時に開設した日根野区(天ヒネ)に移管された。

◎転出に際し京浜東北より低運Mc冷房改造車編成が転用され横浜線に初の冷房車が走る様になった

★ オール冷房編成(S53年6月末日)

蒲田電車区 ◇

	7号車	6号車	5号車	4号車	3号車	2号車	1号車
←							
八王子	クモハ 103	モハ 102	サハ 103	サハ 103	モハ 103	モハ 102	クハ 103
53F	119	257	195	194	139	258	602
56F	123	263	198	199	141	264	605

転出② 大改正では更に中央西線の輸送力増強用として蒲田区に10両の103系が投入され10両の非冷房車が神領区(名シン)へ転出した～横浜線からは9両の転出。

○転出車両 * Mc49・146、Mc75・184、M94・137、Tc559、
T111、T139、Tc512のみ(京浜東北)

* Mc49・146は一年間黄緑色のまま中央西線使用された

転出に際し京浜東北より低運Tcを含む11両程の冷房改造車が転用された

昭和53年夏 転用編成と転用車両

	7号車	6号車	5号車	4号車	3号車	2号車	1号車
←							
八王子	クハ 103	モハ 103	モハ 102	サハ 103	モハ 103	モハ 102	クハ 103
52F	?	121	214	207	147	274	610
バラ		133	246		120	211	573

★昭和53年夏期の横浜線・103系の冷房化率は32%程(約24両)になり主に52・53・56の3編成が冷房編成で後はバラ(共通予備も含む)で存在。

東神奈川電車区動きなし

	7号車	6号車	5号車	4号車	3号車	2号車	1号車
←							
八王子	クハ 103	モハ 103	モハ 102	サハ 103	クモハ 103	モハ 102	クハ 103